

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～

今回は、ふじ地域包括支援センターの取り組み報告と、地域共生社会についての意見交換を取り上げます。

元気で自分らしい生活が送れる地域を目指して by ふじ包括（上地学区）

【目的】地域の助け合い活動を推進する。

【地域特性】防災の意識に地域差がある。買い物できる店が少なく交通弱者が出やすい。

【課題】高齢化率は高くはないが10年後に不安。地域で行った方が良い事も包括へ依頼されることがある。

【現在の状況】

・災害時要支援者の対応について、各町でバラバラであったため、ある程度統一していく方向となる。

・困り事/サービス一覧のたたき台を学区福祉委員長が作成。総代などが住民からの問い合わせ対応で使う想定。作業部会内で内容を話し合い、修正・追加し、学福ホームページにも掲載していく予定。老人クラブの活動情報をのせてみてはとの声もあり、老人クラブ会長を中心に案を練っている。

・上地9区には老人クラブがちょっとした困りごとに対応するおたすけ隊がある。他区にも広げたいがクラブの状況によっては難しい所もあり、今後のやり方や、若い世代への協力呼びかけを検討。

【包括としての悩み】

・話し合いの展開がとても速い事にとまどう事がある。

・優先順位が少し曖昧になっている。

【アドバイス】

・単独の会議と中長期のゴール設定の共通認識が出席者にあると良い。また会議前の事前確認と、それに基づいたレジュメなどがあると、話し合いもスムーズになると思われる。

今回のキモ！

会議の3か条

- ・決まった事の確認
- ・役割分担
- ・残された課題

会議を行っているけれど、上手く進んでいないことがよくある。始め方、終わりが重要！ぶれたり繰り返しにならないように、ホワイトボード等に目標や次回の議題等を書くと流れが作り易い。効果も効率も上げれば業務負担も軽くなる。

地域共生社会についてのイメージを共有しよう！

参加者討論

今回のキモ！

みんながからみ合っている。では、人にイメージしてもらうには、どうしたらいい？

見える化
伝え方

一つ一つの活動が絡み合っ
て『暮らしやすいまち』へつながる。
そこを分かってもらえるような伝え方を地域の人達にできるとより進展していく。

【みんなが作る暮らしやすい地域づくり】

・包括の業務の中で割り振ると

☆人をつながる・・・サロン・ウォーキング・農福連携

☆声を掛け合える・・・見守り体制整備・認知症の理解促進・防災キャンプ

☆楽しめる・・・お散歩ビギン・サロン・イベント企画

☆人と社会が繋がる・・・自由研究（社会調査）・展示会・情報共有

☆自分のまちが好き・まち発見・・・ウォーキングマップ・まち情報の発信

【りたからのアドバイス・感想】

・包括ならではの事、強みは何か？そこに重点を。他の機関で出来る事は任せるのもいいのでは？⇒一度、交通整理が必要。

・自分のまちを好きになる事や、人をつながる事を包括が考えていることにびっくり。そこはりが目指している所でもある。

⇒包括とりたは分野は違っても実は大きな目標としては同じ。ほかにも仲間になれる人・企業・団体はあるかも！それぞれが一つのピースとして、組み上がると大きな絵『暮らしやすいまち』が出来上がっていくのでは。

編集後記：最近ある人から、「リアルで顔を合わせるの久々ですね」と言われました。オンライン会議では顔を見て声も聴いていましたが、そういえば直接顔を見て話すのは数か月ぶり。なんとなく嬉しい気持ちになりました。直接【会って話した】とオンラインで【顔を見ながら話した】は似てはいるけれど、やっぱり会う方が良いなあ、と改めて感じる瞬間でした。

もし今、多くの人が同じ【人と会いたい】ことを思っているとしたら、コロナが落ち着いた後は、色々な繋がりをつくる活動が発展するチャンスが来るのかも、と楽しい想像をしています。